

三郷俳句塾（一月会・第十一期第十回目講座）

【日時】令和元年一月十八日（土）

【場所】瑞沼市民センター

【参加者】稲田眸子、荒木輝二、池田美智子、磯野ヨシ、上田雅子

太田 孝、小野紗耶子、桑原和久、高橋敏恵、

中井川恭子、中田麻沙子、能川はるを、橋本喜代志、

早川恵美、平林益雄、松田明子、宮川洋子、村田文雄、

村山邦保、山本万象

「欠席投句」石崎洋子、牧野政良、御沓一敏

【兼題】令

【投句・選句】四句投句、五句選

◇秀句ギャラリー選評

稲田眸子

たつぷりの湯に蒨葎草震災の日

中田麻沙子

蒨葎草を食べると超人的なパワーを手に入れるポパイを見ながら、多くの人がポパイの様なパワーを手に入れるために蒨葎草を食べたに違いない。冬季に収穫される蒨葎草は、葉の色が鮮やかな緑色が濃く、甘味も多く、そして栄養価も夏季収穫時よりも断然高いと言われている。

大鍋にたつぷりと湯を張り、その蒨葎草を茹でているのである。ぐつぐつと茹でであるその音とゆらぎを見ながら、脳裏に浮かんだのは、平成七年一月十七日、午前五時和四十六分に発生した阪神・淡路大震災の惨状であったのであろうか。

「震災忌」と言えば、関東大震災のことを指すが、この句の場合には真冬の気配であり、阪神・淡路大震災のような気がする。

着ぶくれの仕上げはいつも割烹着

宮川洋子

幼い頃、母や祖母が和服に割烹着を着て、料理などの家事をしていたことを思い出す。

割烹着は、日本で考案されたエプロンの一種。女学生が実験の際に使う作業着として開発され、家事する際に着物を保護するために着用されるようになった。割烹料理店から生まれたのではなく、着物を日常着としていた一般家庭の主婦のために生まれたのである。

そのため、着物の袂が納まる程度の袖幅と袖丈であり、身丈は膝までであるのが通常の割烹着。調理だけでなく掃除などの際にも、衛生上の問題や、着物が汚れるのを防ぐために着用されてきた。

厳しい寒さの中、重ね着をして甲斐甲斐しく働く母。重ね着の一番上に着るのは、いつもの割烹着なのである。母恋の一句であろう。

成人の日の青空にある未来

橋本喜代志

「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます」ことが趣旨になっている成人の日。成人式は人生で大切な日の一つで、大人になったことを自覚する日である。

ところが、毎年一部の成人式が荒れるニュースがメディアを賑わす。会場から追い出されたり警察につかまったりした新成人が言うには、「目立ちたかった」「盛り上げようと思った」という動機がほとんど。心の葛藤を表面に出してしまうのは、もう成人になったのだから、慎むべきであろう。おとなになるということは自立すること、責任感があること、他の人の迷惑にならないようにすることなのだから。

この句の「青空」は象徴的な言葉に違いない。あの真つ青な空は「未来の暗示」、どのような未来を描くかは、本人の心構え次第なのである。高見順は「傷ついたのは、生きたからである」は語っている。成人の日に贈りたい言葉の一つ。

垂直の線の残像落雲雀

高橋敏恵

雲雀は地表に巣を作り、子育てをするため、丈の低い草地を好んで生息する。空高くで囀っているのは、繁殖期の雄の行動で、縄張り宣言をしているのだそうだ。この縄張り宣言は古くから「揚雲雀」と呼ばれている。

この句は、天高く上がり忙しく囀った後、地上に降りてくる雲雀を活写。「垂直の線」も「残像」の見事な切り取り方であり、その場に居合わせたような錯覚さえ覚える。写真もここまでいきたいものである。

鉄塔をのぼる工夫にひかる汗
亡夫墓令和元年年越しす
令和でふ文字にも慣れて賀状読む
年賀状これが最後と無二の友

池田美智子
石崎洋子
磯野ヨシ

みやびなる歌会始令和明くる
よく笑ふ赤子をあやし初電車
浅草へ正月を見に出かけけり
初夢や象立上り文字となる

磯野ヨシ
上田雅子
上田雅子
上田雅子

身の丈の高さへ結び初神籤
チャリティーに集ふ人々年の暮
人は皆静かに逝きて暮早し
人波に呑み込まれゆく初詣

小野紗耶子
桑原和久
桑原和久
桑原和久

竹馬に乗る子なつかし令和の世
理想なる夫婦は如何に曇降る
過ぎし日の痛みも知りて古毛布
白菜を干せばかくれし虫そろり

高橋敏恵
中井川恭子
中井川恭子
中井川恭子

外つ国へ赴任の辞令冬菫
織月うるむ来る年戦なきことを

中田麻沙子
中田麻沙子
中田麻沙子

晩年の真つ只中か年酒酌む
ポケットのスマホが邪魔な日向ぼこ
辞令には松山とあり春の夢

能川はるを
能川はるを
能川はるを

朝礼の訓示吹つ飛ぶ大きくさめ
除雪車に出動指令無く夜明け
よきことはハートのマーク初日記
ひとりごと母の匂ひのするシヨール

橋本喜代志
橋本喜代志
橋本喜代志

幼子の令和を「えーわ」初笑ひ
安寧に令和二年や風光る
よく笑ふ妻あつてこそ福寿草
アメ横の異国の売り娘大晦日

早川恵美
早川恵美
早川恵美

一着の月賦の背広成人日
千両や父の遺品に辞令紙
手づくりの賀状は令和起原の地
ランドセル背負ふ練習春を待つ

牧野政良
牧野政良
牧野政良

辞令受く手にペンダコの新社員
はすかいに雨が糸引く冬田道
鳥の巢や枯草仕立雲の如
梅剪定枝を束ねる古ネクタイ

宮川洋子
村田文雄
村山邦保
山本万象

辞令手交直立不動新社員

山本万象

◇投句◇
転げるが如き歳月去年今年
獅子舞の獅子の口から見える景
令嬢と言はれしは過去畦を焼く
譲り合ふ道下萌の始まりし
梅の香に奥へ奥へと誘はれて
蠟梅や人を酔はせるその色香で
何処で今何してますか久女の忌

稲田眸子
稲田眸子
稲田眸子
稲田眸子
荒木輝二
荒木輝二
荒木輝二

種々ありても令和年号去年今年

鉄塔をのぼる工夫にひかる汗

去年今年マンネリ生活続くか

律令で津々浦に風薫る

餅を食むたつたの一切飯二膳

冬うらら令和怪物花園で

冬晴れに遊ぶ風には令の文字

除夜の鐘年越しならず昼に鳴る

亡夫墓令和元年年越しす

琴の音のひねもす杜に冬ぼたん

令和てふ文字にも慣れて賀状読む

年賀状これが最後と無二の友

大吉のみくじ握つて初詣

みやびなる歌会始令和明くる

よく笑ふ赤子をあやし初電車

浅草へ正月を見に出かけけり

湯に跳ねる光も浴びて初湯かな

今年また年寄は皆個性的

初夢や象立上り文字となる

何処へ行く神の命令宝船

冬の月もちつくうさぎ吾子と見る

賀状来る幼き文字の決意秘め

身の丈の高さへ結び初神籤

老犬の土にねそべる五日かな

梅香る令月を待つ月日かな

チャリテイーに集ふ人々年の暮

人は皆静かに逝きて暮早し

人波に呑み込まれゆく初詣

竹馬に乗る子なつかし令和の世

逆転劇慶春の報チバナアン

荒木輝二

池田美智子

池田美智子

池田美智子

池田美智子

石崎洋子

石崎洋子

石崎洋子

磯野ヨシ

磯野ヨシ

磯野ヨシ

磯野ヨシ

上田雅子

上田雅子

上田雅子

上田雅子

上田雅子

太田 孝

太田 孝

太田 孝

太田 孝

小野紗耶子

小野紗耶子

小野紗耶子

小野紗耶子

桑原和久

桑原和久

桑原和久

桑原和久

高橋敏恵

垂直の線の残像落雲雀

兼題の「令」に令法を知りにけり

理想なる夫婦は如何に曇降る

生きている令和二年の賀状出す

過ぎし日の痛みも知りて古毛布

白菜を干せばかくれし虫そろり

仕事終え冴ゆる夕暮深き青

外つ国へ赴任の辞令冬菫

よく見える瞳を得てなぞる冬銀河

織月うるむ来る年戦なきことを

たつぷりの湯に蒨草震災の日

晩年の真つ只中か年酒酌む

子の御慶あたり憚ることもなく

ポケットのスマホが邪魔な日向ぼこ

辞令には松山とあり春の夢

成人の日の青空にある未来

朝礼の訓示吹つ飛ぶ大きくさめ

赫赫の包丁始鬼かさご

除雪車に出勤指令無く夜明け

よきことはハートのマーク初日記

歌会始皇后の笑み「望」の字に

ひとりごと母の匂ひのするシヨール

幼子の令和を「えーわ」初笑ひ

安寧に令和二年や風光る

よく笑ふ妻あつてこそ福寿草

梯子乗ひやつとさせる見せ所

最終編

風天の帰る柴又春夕焼

戒厳令軍靴乱るる雪中下

アメ横の異国の売り娘大晦日

高橋敏恵

高橋敏恵

高橋敏恵

高橋敏恵

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

中井川恭子

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

橋本喜代志

我もまた姉様被小晦日
 一着の月賦の背広成人日
 ビル解体冬青空へ伸びをする
 継ぎ手なき我家の雑煮作りかな
 発表会終へし子迎へ冬木立
 千両や父の遺品に辞令紙
 とぼとぼと歩いた先や梅の花
 鼻毛には蛇口の役目寒の朝
 ネクタイを緩め一服寒の昼
 手づくりの賀状は令和起原の地
 ランドセル背負ふ練習春を待つ
 着ぶくれの仕上げはいつも割烹着
 待春の歩き初めし児ピンクのシューズ
 令月の河原にテント三つ四つ五つ
 春一番花粉警報発令中
 蒼天に号令響く出初式
 辞令受く手にペンダコの新社員
 エリーゼのために奏ぶ令嬢花菫
 くねくねと箱根の山路令法咲く
 はすかいに雨が糸引く冬田道
 遠ざかる郵便バイクや冬田道
 冬田道夕暮れ人の急ぎ足
 鳥の巢や枯草仕立雲の如
 梅剪定枝を束ねる古ネクタイ
 白魚や魚体に透ける夕日波
 辞令手交直立不動新社員

牧野政良 牧野政良
 松田明子 松田明子
 松田明子 松田明子
 松田明子 松田明子
 御沓一敏 御沓一敏
 御沓一敏 御沓一敏
 御沓一敏 御沓一敏
 宮川洋子 宮川洋子
 宮川洋子 宮川洋子
 宮川洋子 宮川洋子
 宮川洋子 宮川洋子
 村田文雄 村田文雄
 村田文雄 村田文雄
 村田文雄 村田文雄
 村山邦保 村山邦保
 村山邦保 村山邦保
 村山邦保 村山邦保
 山本万象 山本万象
 山本万象 山本万象
 山本万象 山本万象

次回兼題

【荒】

「編集・村田文雄・稲田眸子」

